
時空操作人 暗宮銀二

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時空操作人 暗宮銀二

【Nコード】

N8669E

【作者名】

imaiwa

【あらすじ】

時を操る男、暗宮銀二のひとこま。

（前書き）

こちらにも連載候補のテスト短編ですが、いつか気が向いたら……。

俺の名前は暗宮銀二。

仕事はしていない、する気もない。
特にそれをする必要がないからだ。

まあ、そんなことは大した事じゃない。

取りあえず、散歩に出ようか。

俺はアパートの鍵を開けると、外へ散歩へ出かける。

これといって目的はないけど、強いて言うならば人間観察。

その欲望が、俺の二足を外へと突き動かしていると言っても過言じゃない…。

「おばちゃん」

俺はアパートの管理人砥石金子に、今月の家賃のお金を封筒に入れて手渡した。

「確かに」

おばちゃんはそれを受け取ると、一瞬俺の顔に微笑みかけたがすぐに掃除に力を注ぎ始めた。

彼女を横目にアパートの敷地から離れ出て、近くのコンビニへ向う。
俺が横断歩道を渡ろうとしたその時、大きなトラックが信号が赤だというのに

突っ走ってきて、目の前をスレスレで横切る。

危ないな、俺を殺すつもりか？

何が彼をあそこまで焦らすのだろう？

その理由はどうでも良かった、だけど、俺の中に湧き立つこの怒りをどうしようか。

やっぱり、修正が必要だな。

横断歩道の途中で俺は引き換えし、渡る直前に戻ってみる。

信号はその間に青から赤へと変わってしまったが、気にする必要はない。

今から戻すから。

そうだな、5分前ほどに戻ろうか。

俺は宙に手を翳すと、円を描く。

巻き戻るのだから、反時計回りに。

俺がそれを実行すると、眼前の風景がそう、録画したDVD映像を巻き戻したみたいに

過去に向って動き出す。

道路に走る乗用車、トラックがバックしていく。

しかし、その動きは遅かった。

俺はそれを見ているうちに、イラッとくると反時計回りに円を宙に2、3回連続して書き連ねる。

そうすると、さっきまでゆっくりバックしていく車がその速度を速めていく。

さっき、俺の前をギリギリで通ったトラックが、横断歩道をバックし、俺の右側へ消えていく。

さて、どうするかね。取りあえず考えるために、一時停止をしておくかな。

俺は宙に手のひらを素早く突き出した。この時少しばかり声が漏れる。

その行為を引き金に全ての動きが停止する。

車も人間も、空を飛んでいるカラスでさえ、その動きを止めた。

俺が今時を止めた状態で、何を考えているのか？

簡単に言つと、さっきのトラックの行為をやめさせる方法を思案している。

あの暴走を止める手立てはない物が……。

俺は道路際のガードレールに腰をかけて、しばらくそれについて頭

を悩ます。

あのトラックのタイヤの前に大きな釘でも固定するか？

それは辞めておこう。事故に繋がるかもしれない。

下手をすれば、俺に突っ込んでくることもありえるだろう。

他に良い方法は無いかな…？

難しいな。これは簡単に見えて、難しい。

時を操れるといっても、前後に動かせるだけで

その行為自体修正する事はできないんだ。

修正の難しさ。

大きなトラックがスピードを出しているんだから、それを止めるのは不可能に近い。

何か無いものか。

そうだ、彼の運転するトラック内に入り、アクセルを踏んでいる右足を外してしまえば

減速するはずだ。

なんだ、簡単なことじゃないか。

む、少し巻き戻しすぎだな。

横断歩道から離れすぎでは駄目だ。

5 m手前くらいで、あのトラックを停止させよう。

俺はもう一度さっきと同じように手を宙に突き出す。

そして風景が時間に沿って動き出すと、またそれを突き出し時間を止めた。

うん、これくらいでいいな。

よしトラックに乗り込もう。

く、失敗か、鍵がかかってやがる。

運転は荒っぽい癖に、マメな奴だ。

窓の外からその男の顔をにらみつけた。

この野郎。

くくく。

ふー、辞めた、今回はお手上げだ。

こんなのに労力を費やすのは馬鹿みたいだ。
時をまた動かそう。

手を突き出すと、また時間の歯車が正常に動き始める。
コンビニでも行くか…。

つづく？それは謎。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8669e/>

時空操作人 暗宮銀二

2010年12月18日14時26分発行